

大阪大学等と連携

認知症等の早期発見システムの確立に向けた実証プロジェクトを実施します －アンドロイド・ロボットの将来的活用をめざします－

現在、ひとり暮らし・高齢者のみ世帯・認知症の方の増加が見込まれており、高齢者の社会的孤立をいかに防ぐかが社会的課題となっています。

そこで、堺市では、大阪大学や堺市健康寿命延伸産業創出コンソーシアム（以下「SCBH」という。）と連携し、アンドロイド・ロボットを活用した、認知症等の早期発見や見守りのコミュニケーションシステムの将来的な確立に向けた取組の一環として、認知症の判別等の基礎データとしての高齢者の対話データの収集を行います。

堺市では本実証プロジェクトを通じ、AI・ICT活用による高齢者の見守りや健康状態の把握に向けた仕組みの構築をめざします。

※堺市健康寿命延伸産業創出コンソーシアム（SCBH）

SDGs の考え方を踏まえ、企業・大学・行政・住民等の多様な主体が、健康寿命延伸に関する先導的なサービス等の推進や産業の創出、企業投資の促進等による雇用の創出等、地域の活性化に資する取組を進めることを目的に設立（平成31年3月設立）。

1 実施概要

20名ほどの泉北ニュータウン在住の健常高齢者とその家族等の対話データをICレコーダーで録音・収集し、大阪大学が既に収集している認知症高齢者の対話データと比較の上、認知症高齢者の特徴の把握につなげるもので、大阪大学大学院基礎工学研究科 石黒浩教授及び大阪大学先導的学際研究機構 西尾修一特任教授（常勤）が主導し、大阪大学大学院医学系研究科による協力のもと実施するものです。

本実証プロジェクトの成果は、大阪大学が進めるアンドロイド・ロボット「テレノイド」や自宅への設置も可能な小型ロボットによる、独居高齢者宅等での見守りを兼ねた認知症等の早期発見や日常の健康状態のモニタリングシステムの開発に活かされます。

※実証プロジェクト参加者はSCBHの会員である帝塚山学院大学、桃山学院教育大学、南海電気鉄道株式会社の協力を得て募集します。

※大阪大学大学院基礎工学研究科 石黒浩教授及び大阪大学先導的学際研究機構 西尾修一特任教授（常勤）は未来の人間社会を支える知的システムの実現をめざし、センサ工学・ロボット工学・人工知能・認知科学を基礎とし、人間と豊かに関わる人間型ロボットを創成する研究に取り組んでおられます。外見や動作が人間に酷似するアンドロイド・ロボットの専門家であり、石黒教授は大阪・関西万博のプロデューサー等も務めておられます。

※本実証プロジェクトでは、まずはICレコーダーによる対話データの収集を行います（今後はアンドロイド・ロボットによる対話データの収集も行う予定です）。

2 実証期間

令和3年2月18日(木)～令和3年3月31日(水)

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況を踏まえ、期間を変更する可能性があります。

問 い 合 わ せ 先	(実証プロジェクトに関すること) 担 当 課：市長公室 政策企画部 先進事業担当 電 話：072-228-7480 ファックス：072-222-9694
	(高齢者の認知症予防や見守りに関すること) 担 当 課：健康福祉局 長寿社会部 地域包括ケア推進課 電 話：072-228-0375 ファックス：072-228-8918